

第 72 回 美都地域協議会				
開催日時	平成30年10月26日(金) 午後1時30分～			
開催場所	美都総合支所			
委員出席状況	委員総数	10名	出席委員数	9名
会議録署名委員	草野和馬 委員 ・ 杉島逸朗 委員			

【協議事項】

今後の美都地域の主要事業について

【情報提供】

- ・美都温泉、みと自然の森、道の駅サンエイト美都、ひだまりパークの利用状況について
- ・美都学校給食共同調理場の地産地消率について
- ・秦記念館菊花展について
- ・ふるさとまつりについて
- ・秦佐八郎博士没後80周年記念事業について
- ・ふれあいホールみとの事業について

	氏 名		出欠	氏 名		出欠
	協議会組織構成員	会 長	大 石 康 人	出	委 員	草 野 和 馬
委 員		潮 榮	欠	委 員	杉 島 逸 朗	出
委 員		梅 津 富美子	出	委 員	田 中 綾	出
委 員		小 川 美知子	出	委 員	土 佐 則 幸	出
委 員		木 原 元 和	出	委 員	広 兼 重 継	出
益田市	—	—	—	—	—	—
地区振興センター	東 仙 道	野 村 達 也	欠	都 茂	河 野 敏 弘	出
	二 川	小 原 美智子	欠			
事務局	支 所 長	藤 岡 寿	出	地 域 振 興 課 長	加 藤 正 良	出
	地 域 振 興 課 参 事	松 崎 徹	出	地 域 振 興 課 分 室 長 (政策企画局・総務部)	淺 野 隆 司	出
	地 域 振 興 課 分 室 長 (産業経済部・建設部)	石 川 健 二	出	地 域 振 興 課 分 室 長 (教 育 部)	河 本 昭 宏	出
	地 域 振 興 課 分 室 長 (福祉環境部)	中 島 純 子	出	地 域 振 興 課 主 任	齋 藤 千 代 子	欠

次 第	内 容
<p>1. 開 会</p> <p>2. ますます元気体操</p> <p>3. 会長あいさつ</p> <p>4. 支所長あいさつ</p> <p>5. 議 事</p>	<p>～保健師の指導により体操～</p> <p>(会長) 皆さんこんにちは。それでは、体操が終わって元気になったところで、始めていききたいと思います。前は5月16日に第71回の協議会をさせていただきました。その後、夏は猛暑で大変でしたが、稲の収穫そして、今は祭りのシーズンということになりまして、先ほども話がありましたが、なんだか寒い気がするということで、なかなか高齢者にはついていけないような気候になって困っているところではありますが、最近は行事も沢山ございます。秦博士の記念行事、ふるさとまつりなど色々な行事が目白押しでありますので、できるだけ参加していききたいと思います。今日は予算編成を目前にして、美都地域で考えられる今後の主要事業についての協議ということで、皆様方にもご意見をいただきたいと思っています。大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。早速ですが、始めていききたいと思います。</p> <p>本日は</p> <ul style="list-style-type: none"> ●欠席者： 潮委員 ●議事録署名者：草野委員、杉島委員 <p>それでは、7月1日付けで副市長の選任がありまして、その際の人事異動で支所長さんがお代わりになりましたので、新しい支所長さんにご挨拶をいただきたいと思っています。</p> <p>(支所長) ～あいさつ～</p> <p>(会長) それでは早速ですが、議事に入りたいと思います。先ほども申し上げましたが、新年度予算編成の時期に入ります。美都地域の主要事業として挙げられておりますが、皆さん方から何かご意見があれば出していただきたいと思っていますので、まず、資料1の説明をお願い致します。</p> <p>(事務局) それでは資料1を見ていただきたらと思います。まず、載っている順番については優先順位とかではございません。行政の場合、総務、福祉、農林、土木、教育というように予算が組まれてきますので、その順番で載せております。</p> <p>1番「ますだ暮らし推進事業費」 これは地域の資源を活用するためのコーディネーターの委託ということで、以前から委託をしていますが、今後もやっていきたいという委託費用でございます。</p> <p>2、3番「ゆず産地づくり6次産業化推進事業費」 これまで一段書きで書いていましたが、加工と柚子の搾汁ということで、今は柚子の加工は(株)みとで、搾汁はJAがやっておられます。これまで一緒にしてい</p>

ましたが、事業推進にあたっては別々に進めていった方が予算がつけやすいということがありまして、分けて掲載しています。上段が（株）みとの施設等の改修ということで載せていますが、この計画額については概算ですので、これで決まったわけではありませんし、これぐらいでどうだろうかというところです。それから下段の柚子の搾汁施設につきましては、これは美都の搾汁施設の更新、昭和 63 年くらいに建てておりますので、新たな販路の拡大も含めて搾汁施設の整備ということで、考えております。

4 番「山の道林道プロジェクト事業費」

これは大規模林道ということで、匹見の広瀬から道川に抜ける林道があります。美都についてはみと自然の森から、昔の県道匹見美都線がございますが、工事が止まっていた部分を林道に払い下げをしていただきまして、その部分を改修していくという事業でございます。これは県が主体事業です。

5 番「サッカー場の整備事業」

芝の管理は難しく、利用率を上げるには一面を人口芝にしたらどうかということで挙げております。

6 番「美都温泉設備修繕事業費」

温泉も 25 年が経ち、その中で老朽化が激しい部分もありますし、泉源と井戸のオーバーホールも 10 年に一回は交換しないと、泉源が守られていかないということがございます。そういったことや施設の改善を含めたものでございます。

7 番「自然環境整備交付金事業費」

双川峡の改修です。落石があるということで平成 24 年に工事が中止になったということがありました。それ以降県とも協議しながら予算をつけており、なかなか進まないという現状がありますけど、完了に向かっているという事業でございます。

8 番「新美都温泉整備事業費」

以前はバイオマスエネルギーの部分は別段でやっていたのですが、別にとりよりも新しく建てる時にバイオマスエネルギーも含めて検討していったらどうかということです。特にバイオマスについては美都温泉周辺が少し狭いですので、木材を置く場所の確保がしづらいということもありますので、その辺も併せてということでもあります。

9 番「道路整備交付金事業費」

市道八坂線の改良ということで、今年は舗装をやる予定です。

10, 11, 12 番「過疎道路整備事業費」

10 から 12 番まで同じ事業名にしていますが、市道丸茂三隅線、大峠線、都茂市金線の改良事業ということで、都茂市金線につきましては以前災害復旧で山が崩れたところの山が動いてブロックが動いてきているというところがありますので、その辺の改修を含めてというところがございます。

13 番「二川小学校跡地活用事業費」

これは小学校跡施設を公民館と簡易宿泊施設に活用ということで事業推進を考え、計画をあげております。

31 年度以降ということですので、全ての予算が 31 年度につくというわけではございません。これから調整をしていくということです。8 億 6 千万という金額はすぐにはつきませんので、今後、美都地域においてこの事業を推進していくよう関係課との協議を今後も進めていきたいという考えでございます。以上、事業につきましてはこのような考えで進めていきたいと思っております。

(会長) 31 年度以降の主要事業について説明をいただきましたが、皆さん方の方から何か、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(委員) この民間、県、JA はいいですけど、それ以外の市の部分については大体いつ頃までを目途にやると考えているのかということと、財源の内訳を教えてくださいませんか。

(事務局) 大体 5 年計画で作ってきています。できるだけ早いうちにとということで、いつまでに完了というのはなかなか難しい部分があると思うのですが。そのようなスパンの中で事業を進めていくというところでございます。

(委員) それでも道路改良とかはある程度目途をつけてやらないと。なぜ僕がこんなことを聞くかというと、大峠線は今年度全然予算がついていない。それで八坂線には予算がついている。どっちの交通量が多いかと言ったら誰が考えても話にならない。八坂線をやってはいけないというわけではないですけど、この八坂線の財源は何ですか。

(事務局) 八坂線は国庫補助金と合併特例債です。

(委員) 合併特例債が使えるのは旧美都町と旧益田市を繋げるというのがあって、だからあそこをやるんですよとその時事務局が答えたんです。ということは上種まで繋げるんだね。繋がるわけないと思うけど。

(事務局) そこまでは計画していません。

(委員) 合併特例債を使うなら繋げないとおかしい、と言われたんよ。この先種まですごく長いのだから合併特例債でできるわけないでしょ。そんな考え方で合併特例債を使って、なぜ八坂線やるのか。あそこに家が何軒あるんですか。

(事務局) 工程的に当初の予定より伸びていまして軒数が減ってはおります。

(委員) あそこを止めてでも美都温泉をやるべきだと思わない？なんで今年予算を使ったの。

(事務局) 元々は平成 18 年から八坂線の改良を始めようということで始めました。大峠線は平成 22 年から。丸茂三隅線については途中で予算の関係でストップしていることもあって、八坂線をやる。久原三隅線をやる。そういうことで道路改良を進めていたのですが、大峠線と並行してやっっていこうということで平成 22 年から八坂線も大峠線もやるということでやっていました。財源は八坂線につきましては合併特例債。大峠線については過疎債。これを充当しながらやってきていたわけですが、財源的に国庫補助を活用して道路改良を進めていこうということで、道路交付金事業に益田市全ての路線を国庫補助に乗り換えようといいました。当初、八坂線については 10 年くらいで全て終わらせようという目的はあったのですが、色々予算の関係で伸びてきていますが、まずはやりきれないといけないだろうというのが一つはあって、大峠線もやりかけて、国道から県道への連結区間は終わっていて、あと一区間が少し残っていますので、八坂線をやりながら大峠線の幹線をやっっていこうというのが今の状況です。

(委員) それは危ないよ。交通量が違うんだから。どちらが今時点で危険かという観点が全く入っていない。今年は予算がついていないんでしょ。八坂線はついていましたね。

(事務局) 1 千万ですね。

(委員) 温泉の所を一千万なんて終わりでしょう。

(事務局) 大峠線につきましては約 4 千万弱。

(委員) だから何で予算がつかないのかなと思うんですよ。去年はつけた？

(事務局) 去年はつけました。

(委員) けどいろいろ問題が出たよね。

(事務局) 去年は舗装まで仕上げましたが、道路が一段下がったままなのは非常に利便性が悪いだろうと。逆にそこだけ膨らむと道路走行上危険が伴うと思いますけど、一段低い方がさらに危険じゃないだろうかということで、それからもう一度ガードレール、塗装もやって、一応活用できるようにとるところまでやりました。

(委員) そんなことして、今から雪が降ったりして、上から来た人が突然道が狭くなっていたら危険でしょ。地元の人には知っているからいいかもしれないけど。けど温泉というのは特に正月とか雪の多い時とかにも帰省して帰ってくる。上から広い道だと思っていたら急に狭くなって、しかもカーブ。事故が在ったら益田市は言われますよ。

(事務局) 今、広げている所。除雪すると雪を道路の脇におけますよね。今までは狭い中だったですけど、あそこを利用することができるかとも思うんですけど。

(委員) 雪が降って除雪するのに間に合うのかと思うんですけど。とにかく補正でもして、早く対応しないと。八坂線に掛ける予算があるなら、こっちを先にやってその後八坂線をやればいいんじゃないですか。益田市の道路改良の基準は何ですか。交通量、危険度当然そういうのを勘案しますよね。それならどっちがどうかというのは誰が見てもわかりますよね。

(事務局) それぞれ地元の皆さんが言われるのもあります。平成 18 年から取り掛かっていてまだ完了できないということもあって、ある程度完成の目途をつけながら次のところへと、一つ一つ片づけていかないと。一つのところに集中というのは難しいということで、今こういう状況になっています。

(委員) 交通量の多さを考えないといけないと思うよ。4 千万くらい集中投下してやってしまえばいい。

それと、道の駅サンエイト美都のトイレの改修。あれはどのような考えでおられるんですか。

(事務局) トイレの件は以前にもこの会でありまして、今年の十分な対応にはならないかもしれませんが、洋式のトイレを 9 月補正でつけましたので、男性女性用それぞれ改修を年度内に行う予定にしております。

(委員) これまで度々地域協議会で出されていたものが、かなりの大きな額で沢山出ているように思います。その中でも柚子の加工場。美都温泉の改修。二川小学校活用が出てるんですけど、先ほど課長さんが言われましたように、これが全部できるというわけでは決してないと思いますが、その中でも特にこれとこれは絶対美都として要望したいというものは欲しいですよ。そういうものがありましたら、教えていただきたいと思います。

(委員) 主要事業ということは必要性が高いということで、柚子や温泉の関係を掲げておられるのは人口や経済効果、そういう部分に本当に力を入れているのか、入れているからこそ主要事業に挙がっているんだと。それなら 5 年以内にといたら過疎債も無くなる。自主財源も無くなるようになったら本当にできるんですかということになりますよね。ですから、非常に不安があります。人口はどんどん減る。温泉も非常に客が減っている。報告事項にもあったが、報告するだけで、それを今後どのようにしていこうと考えているのか。エイトにまかせればなんとかなるのか、行政としてどのように力をいれればいいのか。力を出せる状況を作る。そういったことがあって初めてできる。道路関係のことも、道路がよくなっても人が通らなかつたらやれんですよね。やれんのは美都、匹見だけじゃない。二条の方の学校が無くなる。真砂も頑張っているといっても、とうとう益田市全体で冷え込むような危機感がするんですよね。ですから、主要事業というのを行政はどう考えているのか。議員さんも報告会がありますよね。議員さんは市民を代表して、市民がどう考えているのか、自分はどういうことで押し出されて出ているのか。行政が出してきたものを点検ばかりじゃなく、こういう提案が弱いんじゃないかという討議になって初めて益田市が盛り上がる。ですから、今後議員さんも地元から選出するときに、地域性の議員じゃなくてもしっかりとまとめたり動かしたりしてくれるような人

を・・・市からの提案に対して、こう考えられるんじゃないかと提案できる人がいい。議員も他所に勉強しに行っても、その辺が非常に弱い。それは組織で言うと社長。社長が先頭切らないといけないんですが、これ、4年で終わる社長だから。職員さんに本気度を見せて、主要事業でどうやったら人口が増えるのか、活性化していくのかそういう部分を打ち出していかないと。道路のこともだが、主要事業は計画的にやらないと。これはお答えが難しいかもしれないが、その辺の本当のところを知ってみたい。自治組織のことも、本当に集落に必要なだから押し出していこうというのか。学校の再編も同じ。問題は大きいけど本気度を出していかないと何もならないんじゃないかと思います。以上です。

(事務局) 先ほど話がありました主要事業のことで、市の全体で予算編成前にまず主要事業の計画を部局から出して、事業概要のヒアリングをして直近は来年度、まあ2、3年の間でどれに取り組むか。一方ではやりたくても財政的な問題。入ってくるこれからの市の見通しと、それに見合うところでどこまで対応できるか。その中で、市全体の優先順位になるとこの主要事業、これは美都地域に限ったところで今年度出したものがここに載っているわけですけど、一方ではこれ以外のことを美都地域は全く何もしないのかとそうでもなく、細かな事業が沢山ありますけど、やはりこれが今の地域振興によって主要な事業であろうと。

可能な限り、これらを優先的に予算配分をしていきます。なかなかこの中で何が一番かという優先順位というのはこちらとしてもつけにくいところがあるんですが、一応これが美都地域における主要な課題であるからその課題解決に向けてはこれに取り組んでいきたいという考え方であります。ですから、先ほど委員さんからもありましたけど、やはり地域の方から考えると同じ道路整備にしてもここは優先順位が高いんじゃないかとか、ここに挙がっている事業にしてもこれは優先順位が高いんじゃないかとか、また、これ以外に最近こんな課題がでてきているからというところを今日のところでご意見をいただきたいと思います。予算が決まってからではどうしようもありませんので、今うちで考えている主要事業を一通り説明させていただいて、これに対するご意見、特にこのところをできるだけ早く力を入れてやってほしいとか、これ以外の課題とかご意見を頂ければと思っています。

先ほどのご質問に対する回答にはなっていないかと思えますし、先ほど委員さんからも言われましたが、最終的には市長が判断して決めます。しかし、それに判断できるものというのは主管課が状況、住民のニーズを把握して最終的な判断で市長がどうするのかというところでありますので、そこは行政マンとして我々が汗をかかなくてはならないことと思っておりますので、それを肝に銘じながらこれからも努力していきたいと思っております。

(委員) これには載っていないんですが、今益田市は市道の維持管理に一千万しかかけていないと聞いたんですけど、それくらいですか。

(事務局) 確かな予算額は今ちょっと覚えていないのですが・・・

(委員) 三隅支所の人が、益田の土木課長が土嚢を積みに来られた。何しているか

聞いたら、予算がないから自分達でやっているんですと言われた、とびっくりしておられたけど、確かに色々なところを削っていかないと益田全体がもたないわけけど、地元からの要望に対して予算をしっかりとって管理していかないと。三隅町は2400万。年間約800万自治会の要望でやりますということだし、三隅町の単独で道路維持が年間740万。入札なんかせず、指示を出して、県は年間一括でやっているよね。前期後期で分かれているけど、浜田県土は年間1社。1200万で最終的には追加で2500万くらいを維持している。益田市もそうやってでも臨機応変に維持をやっているか。道路を新設、全面やり替えなんか無理なんだから、維持していかないと。だからその辺の予算も来年度はしっかりと確保してってもらいたいと思います。

(事務局) 益田市全体で一千万ということはないと思いますけど。

(事務局) 交通安全の交付金での道路の白線を引いたりガードレールを直したりカーブミラーをつけたりといった予算が益田市全体で700~800万。

(委員) 維持管理していくしかないんだから臨機応変にできる体制。毎回入札するのではなく、県のように年間一括同じ業者にどんどん指示していく。こういう体制がいいと思いますけどね。

(委員) 主要事業は本来誰がやるんですか。住民の声がどれくらい集まっているのか。財源がないというのはなぜなのか。財源をどうやって作ればいいかとか。財源がないというのはこの主要事業が先送りになったりできなくなったりするからね。定住という言葉掲げすぎているが、そのプロセスが全くないし、二川の町営住宅のこともあれほど声を出してもこういう手段ならこうなるよとか何もない。とにかく財源がないというのはなぜなのか。儲けがないのか。じゃあこれはできないということじゃないんですか。できるようにするためにはどうやってやろうかというパワーがないと面白みがないし、よその市が潤っているというのはちょっとはずれた職員がこれでやるでとそういうのが外に見えない。市長に手柄を立てさせるくらいの職員にやる気がないと何もならん。普通の会社ならとっくに潰れてる。美都温泉なんか人も来なくなってからじゃ何もならん。その辺のことが見えてこないからはがゆいですよ。

(委員) 支所長さんはこの全部の事業に優先順位は付けられないと言われましたけど、それでも優先順位をつけて、これだけはというのをやらないと。これ全部が通らないのであれば・・・全部通るんですか。

(事務局) 最終的には財政当局から言ったら限りがあるんだから、この中で何がやりたいのかというところで優先順位。今の予算から言うと福祉、土木、産業経済あたりでの優先順位。実は今日これが終わって政策調整会議で次年度の具体的な予算編成方針について示されるんですけど、多分例年であればこの部局に対してある程度予算の枠というのが配分されるんじゃないかと。そうなってくると全て絶対できませんので、その中で優先順位をつけて出す。今年度から支所の見直しがなされて、今までは支所で枠があったのですが、30年度からはこれを本庁の中で一括してやれ

ば予算規模にしてももう少しできるんじゃないかと。柚子のことに對しても美都だけのことで考えるんじゃなく、益田市として農業振興のことでやれば優先順位を上げて思い切った予算もつけられるんじゃないか。今回支所の見直しというところで、予算の対応の考え方も見直して、今年30年度からやっていますけど来年度に向けてはさらにいい方向に変えていきたいというところはあります。

先ほど言いましたようにいずれにしても予算は全ては当然できませんので、そこは財政当局から出された財源の枠の中でいかに優先順位が高いものをやるかということはいずれ考えなければできませんので、まずは担当部局でそれを考えて予算査定、最終的には市長のところへまとめていくということになります。

さっき委員さんが言われた財源が無いというのは、我々がよく財源がないというのは一般財源といって益田市が自由に使えるお金、税金等は自由に使えます。もう一つは交付税。これは自治体として益田市は100億必要だとして、税金が30億入ってくるなら70億は交付税で見てくださいというものが標準的なものです。だから自由に使えるのは税と交付税というところです。そこがなかなか収収も厳しい。普通交付税が下がってくるというところで、入ってくるお金が減ってきますので、厳しいんですけど、もう一つは国や県のお金を取ってくる。これも我々が国県の制度をしっかりとって、益田市がこういうことを考えているというのがあれば、できるだけ早いところでこの補助金を取りに行かないと。制度によれば10分の10全てを県が出してくれる補助金もありますし、これをやれば2分の1は国が見てあげましょう。同じ1億やるのを益田市が1億を出さずに5千万は国や県が見てくれますよという制度があれば、主要事業のところでお金がないと言えば国県のお金を1円でも多く取ってくる。そういう努力もしないといけないと思います。そこは徹底して全職員が汗をかかねばならないと思います。

(委員) 今、市として、できるだけ元気で健康に生活する為に医療費削減の為にということで体操がありましたよね。そういうところも市は力を入れているのかなとも思いますけど、そういったことでできるだけ健康寿命を長くしてみんな元気に過ごすためにはということで体を動かして、もっと生産者を増やすためにこういうものが必要だとか、健康のために温泉の取り組みをもっと取り入れた企画をして、そこで健康になるためのものを何かやるとかという市全体の予算でそういうこともやれるのではないかと思います。それから、匹見の温泉も今かなり大変な状況になっているということで、これも常時人がおられないということ伺いまして、そういったことで、そういった取り組みとか、先ほど委員さんが言われましたように、そういった本気度を・・益田市のなかでも美都は温泉やひだまりパークも全国でも上位になったりしていますので、益田市の片腕としてやっていける部分もあるんじゃないかと思います。

(事務局) 今のご意見で、例えば柚子のことにしても健康と柚子をセットで。今までなら農業の範囲になっていたところを複合的に考えて、厚生労働省の補助や違う省庁の補助も取ってこれるという形がありますので、やはりこれは、幅広く関連するところ、今までは考えられない省庁であるとか、まして地方創生でこちらの地方独創性の考えを示せば、国県の交付金も取れてくるということもありますので、繰

り返しになりますが、我々のところで知恵を出して自分たちにお金がなかったら国や県の支援をいただくような格好で。そのためにはこっちがしっかりとストーリーを作らないといけませんので。これによってどういう効果があるんだというのがあれば、地方創生で地方の応援するという補助がありますので、行政の方でたたき台、素案を作り、最終的にはトップの方でこれでやっていくんだということになっていくと思います。

(委員) 昨年の総合支所の見直しの時に、予算編成のことで言われたことがあって、今までは支所で予算の枠があってなかなかできなかったけど、今度はできるようになるという説明がありました。31年度に向かってはこれまではできなかったけど、支所の見直しをしたおかげでできたということがわかる何かほしいと思うんです。見直しをかけて全体で予算を組んだからこの政策ができるんだというものがほしい気がするんですが。難しいかもしれませんが、例えば3番の柚子の搾汁の問題にしても、これまでも何回も上がっていたけどできなかったというのがあると思うんですけど、ということではできるようになるのかなというような感じに私は聞き取りましたが、そういうことも含めてこれは支所の見直しをしたからできるようになったというものがほしいです。結局できなかったというふうにならないように一つずつでも前を向いて進めていってほしいと思います。

(委員) 2番の柚子の加工施設の件ですけど、柚子の生産加工場を活性化して地域の活性化を図る加工施設ということですが、これはゆずっことか柚子の製品に限るのですか。

(事務局) 今考えているのは柚子の加工施設の改修ですね。新商品も色々作られたり、こちらも提案をさせていただいたりということもありましたが、今回は施設の改修費ということになります。

(委員) 柚子製品が次から次へ出ているんですけど、今皆さんに一番受け入れられているのがゆずっことではないかと思うのですが、他の製品にしても出たけど、いつのまにか影をひそめているという商品も多々あるように思います。大手のロングセラーの製品というのは日々研鑽してより良い製品をつくるためにプロジェクトを組んでやっておられるということを知ります。ゆずサイダーにしても普段飲もうとするには高すぎるとか、あまり庶民にやさしくないような製品とか、チョコレートにしてもお使い物にはしても普段の生活の中には溶け込まないようなものが結構あったり、そのようなことの改善とか改良とかも進められているのか、前から不思議な感じがしていたんです。ちょっとはずれているかもしれませんが、お聞きしたいのですが。

(事務局) 柚子商品については色々サンプルも作ったり、試作品までは補助金を使ってできるんですが、本当の商品化する部分はなかなかできていないというのが現実です。サンプルにしても作ってみるんですが、私たち企画の方も足りない部分があると思うんですが、じゃあその後誰が作っていくのか、という誰がという部分が行政で進めていくにしても、行政がずっとその商品を抱えて管理するということにもなかなかできませんので、民間と協力していかないと難しいということに

なって、打ち上げ花火的になってきているというのが現実です。

(委員) 柚子カステラはどうなんですか。

(事務局) 柚子カステラは、民間の力でキヌヤさんやJ Aさんが三菱食品さんと一緒に力を併せて柚子製品を作っていたいて、これはどうだろうかということで今進んでいて、初めは地方版ということで、益田地域だけでしたが、6月くらいから全国的に販売をさせていただくということで、今も1回のロットで5千くらいでない業者も作ってもらえないんですよ。

5千本を1カ月の賞味期限の中で販売していくということになると、益田だけじゃ売れませんので、どんどん人気商品になっていけば次のステップにいて、その中でJ Aさんやキヌヤさんに協力していただいて、販売元になって商品として定着していくということではあるんですが。

柚子カステラについては色々な所の柚子の果汁を入れてカステラを作られたのですが、美都の柚子については風味が飛ばなかったということです。原因はわかりませんが、作る方が言われるには、絞り方、果汁率17~18パーセントくらいの部分と遠心分離でない絞り方。あとよそと違うのは完熟してから収穫している。時期は11月で熟れてから採っていることが原因ですかねという話はさせていただいたんですが、業者さんも原因がわからないということで、まあ、分析していけばわかるかもしれませんが。そのような状況で品質としては非常に良いということです。先ほどの委員さんのことであらうと、良きパートナーを見つけてやっつけていかないと商品開発と併せて改良はなかなか難しい部分があると思います。

(委員) 私たちはよそのお土産物を買う時に地元の手作り品であったり、地元の物がほぼ100%入っていたりとかできるだけそういうものを買う傾向にあると思うんです。その方がおいしいし、価値があるものだと思います。まして大手の文明堂さんに5千は大変なことで、地元にもお菓子屋さんやお菓子づくりの好きな方がおられると思いますがなぜしなかったのか。そういった手作りのものを今の人たちの嗜好は求めていると思います。地元の名前、個人の名前が載ったりしたものをできるだけ求める傾向にあります。柚子に附随して瀬戸田レモンというのがあります。あれはレモンやさんのレモン100%を使ってレモンケーキを作っています。大手に依頼すると楽ですが、もう少し発想を変えて地元の物に目を向けるとか、作ってくれる方も益田市にはおられると思います。

(会長) それでは時間もかなり経過しましたので、主要事業についてはこれくらいにしたいと思いますが、いずれにしても主要事業については今後美都地域において実施してほしいという要望的な要素もありますし、将来的にこうありたいという方向で出されたものですので、予算編成に当たっては参考にしていただいて、優先順位をつけて実施していただきたいと思います。柚子については搾汁はJ Aが事業主体ですから、加工にしても民間が事業主体ですから難しい面もあると思いますが、柚子でちょっと危ないのは生産者の中で最近価格の高いところの他所へ出される方がだんだん増えてきています。少しでも高いところへ出したいという気持ちはわかりますが、その辺もありますので、売り上げの単価を上げるとすれば衛生面が今問題なんですからそこを解決するというので、搾汁機の更新をするとかを働き

<p>6.情報提供</p> <p>・美都温泉、みと自然の森、道の駅サンエイト美都、ひだまりパークの利用状況について</p> <p>・美都学校給食共同調理場の地産地消率について</p> <p>・秦記念館菊花展について</p> <p>・みとふるさとまつりについて</p> <p>・秦佐八郎博士没後80周年記念事業について</p> <p>・ふれあいホール美都の事業について</p> <p>7.その他</p>	<p>かけていただかないと。生産者が高い方へ行ってしまったら、美都の柚子は何なんかという話になると思いますので、その辺も含めてJAさんとの調整を取っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。主要事業についてはこれで終わりたいと思いますが、いいですか。</p> <p>(委員) はいの声あり</p> <p>(会長) それではあとは報告事項だけですので、このままやりましょうか。</p> <p>(事務局) 次第に沿って報告</p> <p>■美都温泉、みと自然の森、道の駅サンエイト美都、ひだまりパークの利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美都温泉…当初15万人→現在9万人/年間 近々開設以来350万人になる予定 健康増進と併せて利用者増にできるよう検討会実施中 ・みと自然の森…昨年より利用者増 ・サンエイト美都…一時期閉鎖していたが美都森林により再開 29年度3万人 右肩上がりでの利用者増 ・ひだまりパーク…25年度から徐々に利用者減(暑さや高齢化が原因) <p>■美都学校給食共同調理場の地産地消率について</p> <p>H29年 ・・美都産39.8% 益田市全体地元産62.2% 米は100%の為含まない</p> <p>H30年現在 ・・現在美都産40.3パーセント 益田市全域62.4%</p> <p>葉類はなるべく農薬を少なくし、一枚ずつ洗って使用 野菜等は3回洗浄により異物混入を防ぐ 年に1回生産者と生徒と一緒に食事し、安心安全の意識を高めている</p> <p>課題 ・・生産者との出荷の調整</p> <p>■秦記念館菊花展について</p> <p>10/26～11/4まで秦記念館駐車場で開催 10:00～16:00 開催期間中入館無料</p> <p>■ふるさとまつりについて</p> <p>11/3 さくらドーム こども神楽、吹奏楽、太鼓</p> <p>■秦佐八郎博士没後80周年記念事業について</p> <p>11/24 グラントワ 北里大学、新見大学講演 NPO法人劇 展示物 健康コーナー</p> <p>■ふれあいホールみとの事業について</p> <p>12/23 玄武の舞 3/2 ベルボトムズコンサート</p> <p>(会長) 報告事項は以上ですが、その他で何かありますか。</p>
--	---

(委員) 報告事項の中ではないのですが、益田市公共施設等管理計画のことで平成28年度から30年間という非常に長いスパンで市として計画を掲げられていると思いますが、その中で秦博士の没後80周年ということで、秦記念館とか図書館とか非常に大切な施設がひょっとして無くなるのではないかとというようなことが、出前講座に行った時に耳に入りました。費用対効果だけで片付けられるものではないと日頃から思っておりまして、世界の偉人の施設、ただ入館者数が少ないというだけで片づけられるのはどうかと思います。最近耳にしたので、ちょっとびっくりして、そのあたり何かあるのかなあと思いましたので。あるいは図書館にしても。美都には公共施設が沢山ある中でなにかそういった動きがあったのかなあと心配になったので。

(事務局) 私のところで、そのようなことは聞いていないのですが、管理方法。例えば秦記念館は今シルバー人材センターに委託して管理をしているのですが、それは美都で予算をとっていたり、益田の民俗資料館や雪舟記念館などがある中でどうやって効率的に管理していけばいいかというような話はあるのですが、それをなくすという話は聞いてはおりません。秦記念館については、今せっかく没後80周年をしているのに来年からやめるという話はないと思っています。

(委員) 一つ聞いていいですか。菊花展をされるのに今年は駐車場へされていますが、前は記念館の中でやっていたと思いますが。あそこで菊舎がポツとあって何かおかしいなという感じがしたものですから。

(事務局) 以前は菊舎を庭に設置させていただいていたんですが、観る時に間が1メートルほどしかないんです。そして段差があつたりするので、一部の人から足場が悪いという意見もあつて。中でやるのもいいですが、あそこでやっても何をやっているのか通った時にわからなかったりしてもいけないので、今年は足場のいいところで目立つようにして、菊を見た後に記念館に行ってもらえたらいいかなと、計画を変えさせていただきました。

(委員) そういう狙いがあるのなら良いですよ。

(委員) がたがたでちょっと歩きにくいですね。いい靴で来られた人は・・まあ見方によっていろいろありますね。

(会長) その他事務局の方で何かありますか。

(事務局) 先ほどから柚子の加工施設の更新ということで、ご意見があつたことで、昨日推進協議会がありまして、その際JAから中間報告がありました。その内容は、今、市と県とJAと搾汁機の検討を進めているんですが、来年度のところで、県の事業に載せて更新をしていきたいと。農協が言われるには搾汁機は新しくしたが、柚子が集まらないようじゃやれんということで、美都以外の市場に流れていることもあるということで。その辺り柚子を集める方法を考えないといけない。単価的なことも含めて色々していけないといけないということはおっしゃっています。

した。あと、県の事業の活用にあたって搾汁機と皮。皮も結構取引があるようで、皮の活用ができないかということで、市、県、JA一緒に検討している。そういう段階にありますということで、昨日中間報告がありましたので、報告させていただきます。

(会長) 他にはありませんか。では、次回はいつ頃でしょうか。

(事務局) 12月か1月くらいに1回させていただいたらと思っております。

8. 閉 会

(会長) まあ、予算編成との兼ね合いもあると思いますので、それに合わせていただいたらと思います。それでは本日はこれで終わりたいと思います。

— 午後3時00分終了 —

第72回地域協議会の顛末を記載しその相違ないことを証するためここに署名する。

平成 年 月 日

議事録署名者

同